

家畜伝染病に係る防疫対策等の強化

奈良県における取組

【担当省庁】 農林水産省

現状と課題(背景・要望する理由等)

○飼養衛生管理基準の改正に伴う畜産農家の負担増加

- 令和2年度に改正された飼養衛生管理基準に対応するため、畜産農家は、**野生動物の進入を防止するフェンスや防鳥ネット、更衣施設、消毒施設や食品残渣を利用した飼料(エコフィード)の加熱設備等の整備**を行った。
- 農場バイオセキュリティの向上を図るため、これらの**防鳥ネットの更新等の維持管理が必要**であるが、**畜産農家にとって大きな負担**となっている。



<エコフィード処理設備>
農林水産省 令和元年度
「エコフィード全国セミナー」資料より



<野生動物進入防止フェンス>

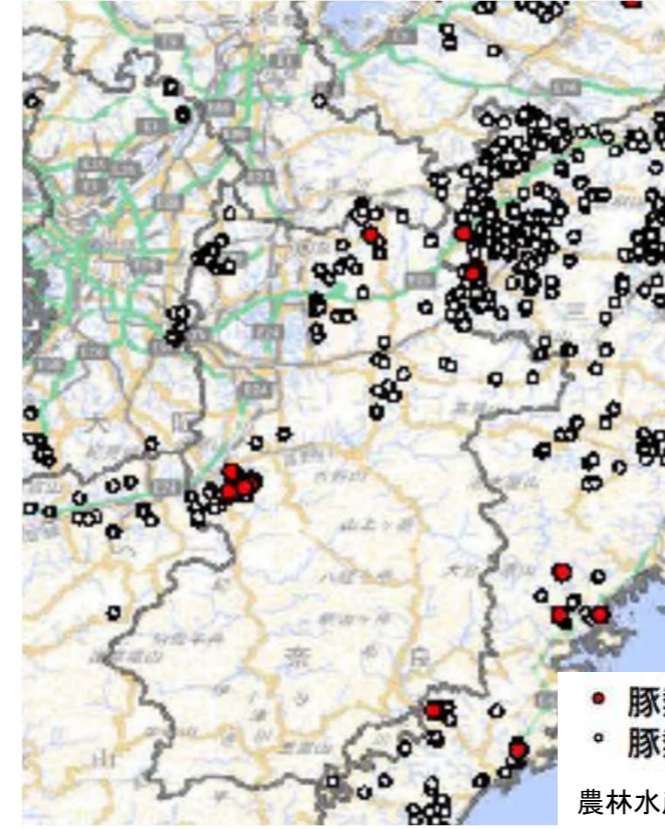
○迅速かつ簡便で精度の高い検査方法の確立

- 適時、適切な豚熱ワクチン接種を行うためには**免疫付与状況検査**が必要であるが、正確な検査結果を得るには、**時間と労力のかかる中和抗体価の測定が必要**である。

○地域の実情に応じた豚熱ワクチン接種体制の構築

- 現行の防疫指針では、抗体保有率が80%未満の豚群では動物衛生課へ協議の上で追加接種を実施する事になっている一方で、**80%以上の豚群では抗体陰性豚が特定されている場合であっても追加接種の対象とはならず、追加接種が出来ない状況**であるが、豚熱の防疫対策では飼養衛生管理基準の遵守とともに、**ワクチン接種は極めて有効な手段**である。

○野生いのししでの豚熱陽性確認事例 (直近6ヶ月:令和5年5月24日時点)



隣接県の県境付近でも野生いのししでの豚熱陽性が確認されており、県内の養豚農家は常に豚熱ウイルス侵入のリスクに晒されている。

奈良県における野生いのししでの豚熱陽性確認状況

令和2年度	: 27頭
令和3年度	: 12頭
令和4年度	: 4頭
合計	: 43頭

● 豚熱感染
○ 豚熱非感染
農林水産省HPより

国にお願いすること

- 畜産農家を実施する**農場のバイオセキュリティ向上に資する施設整備等に対し、長期的かつ安定した財政的支援**をお願いする。同種・同能力のものの再度導入(いわゆる更新)も対象とするよう、お願いする。
- 適時・適切なワクチン接種の検討をきめ細やかに**行うため、ELISA法の精度向上も含めた**迅速かつ簡便で精度の高い検査方法の確立についての検討**をお願いする。
- ひとたび発生が確認されれば農場の全ての豚が殺処分となる豚熱において、十分な量のワクチンが供給できる体制が整ってきた事を踏まえ、繁殖豚・肥育豚にかかわらず抗体陰性豚について、**国と協議の上、追加接種もしくは2回接種の実施ができるよう、検討**をお願いする。

【県担当部局】 食と農の振興部 畜産課